

## ⑩ 岡田三郎助の死去

黒田清輝歿（大正十三年）後、西洋画科、次いで油画科の主任をつとめた教授岡田三郎助は、昭和十四年九月二十三日に死去した。彼は西洋画科設置とともに助教となり、直ちにフランスに留学して帰国後教授となった（明治三十五年）。以来、図案科、西洋画科の指導にあたるとともに、文展、農展、勸業博覧会をはじめとする諸展覧会の審査員を歴任し、昭和八年には帝室技芸員、帝国美術院会員に任命され、同十二年には第一回目の文化勲章を授与されるとともに帝国芸術院会員にも任命された。美術界におけるその輝かしい経歴にはまさに時代の寵児といった感があるが、それは優れた作品と人柄に基づくものであった。彼が指導した西洋画科、油画科と本郷洋画研究所を合わせると、夥しい教え子が居り、洋画のみならず工芸界においても彼を師と仰ぐ人々もあって、その声望のほどは『画人岡田三郎助』（大隅為三・辻永編。昭和十七年、春鳥舎）に寄せられた関係者の追想によって窺い知ることができる。岡田三郎助の死去により藤島武二が油画科主任となった。なお、翌十五年二月十四日から二十日まで府美術館で遺作展が開催され、大小五百余点が展示された。

## ⑪ 図案部成績展示会

工芸科図案部は昭和十四、十五、十六年の三年間、毎年成績展示会を開いた。その記録は「東京美術学校図案部展記録」と題してフイルされている（提供三好二郎氏）。

昭和十四年の第一回展は九月十五日から二十日まで銀座三越で開

かれた。左記はそのプログラム（印刷物）である。

### 第一回東京美術学校図案部成績展示會

私等是最初の試みとして吾校圖案部生徒の平常の成績を發表致す事にしました。

從來やつて來ました年々の卒業成績の展觀は所謂卒業製作の發表でありまして大袈裟な量と極まつた意圖の下に打ちこんだ仕事をさせる、やゝもすれば展示表現に墜つるの感があつてこれでは圖案部生徒の面目を充分に語るものとは謂ひにくい處があります。在校生徒の心の往くまゝにあれやこれやと聊のおぢけもなく掘り下げてゆくその仕事にはたとへ破綻がありこなれぬものがあるにしても又一面に摘み採られ掬さるべき妙處があるのだと思ひます。こゝに我々教員どもは生徒平生の苦心と陶酔を暗の中に葬りさる事の惜しさから彼等一年中の成績から數點を撰んで一般の批判に委ねたいと存じます。若い學徒の物足りなさやかたくなさ貧しさの中から彼等の研究態度に數分の見處を發見してやつて戴きたいとお願ひ致します。

昭和十四年九月十五日

東京美術學校圖案部主任 和田 三造

### A 基礎研究

岩本 敏郎 植物解體組織

石井 輝夫 花解體組織

石山 彰 鳥解體組織